

相武台地区連合自治会防災勉強会について

目的 ≪防災・減災を担う人材の育成と、地域のコミュニティ及びネットワークづくり≫

(1) 地域の高齢化に鑑み、地震や風水害に対しての防災・減災の自発的な自助の取り組みについては、大きな課題と言えます。

地域での働き掛けを進めるにあたっては、地域ぐるみで行われることを主眼に置いた防災・減災を担う人材の育成と輩出。また、向こう三権両隣の声掛けを進めるコミュニティづくりや地域関連の組織（PTAや婦人会など）ネットワークとの強い結びつきが肝要かと思えます。

はじめに、単位自治会で組織されている自主防災組織のメンバー（自治会長及び防災部担当者など）及び地域のネットワークを築くための地域関連の組織（PTAや婦人会など）に受講を希望する方を募り受講を進めていくことから、地域の災害リスクを把握したうえで、受講者をご自分の地域で研修内容を広めていただく防災のリーダーとなり、「自らの命は自ら守る」自助の意識付けと相互扶助の共助をもって防災減災のまちづくり強化に努めていくことを目的とします。

< 講 義 内 容 >

座学

- 1、地域の災害リスクを学ぶ（教材「相武台地区防災計画」「相模原市防災計画」）
- 2、地震災害（自身災害を防ぐ）（教材「相武台前町内会防災・減災マニュアル」
危機ハンドブック「身近な防災 ココが変わった」）
- 3、先進的な取り組みを行っている地域の事例（教材「緑ヶ丘自主防災隊DVD鑑賞」）
- 4、平常時・発災時の単位自治会防災組織・避難所運営の取り組み及び対応（教材「避難所運営マニュアル」危機ハンドブック「避難所運営」）

実技

- 1、DIG または HUG
- 2、救出・救護・搬送・初期消火
- 3、発災型避難訓練
まちセン及び校庭を使用して、地震発生から一時避難場所での情報伝達までを行います
 - ・3分間行動
 - ・避難開始時の対応
 - ・避難時にご近所の安否確認
 - ・救出救護・初期消火
 - ・一時避難場所での対応

防災公園について

地震災害については、R3年2月13日、23時7分頃発生した福島県沖でマグニチュード7.3、宮城県と福島県で最大震度6強を観測した東日本大震災の余震がありました。

10年経過した現在までの余震は1.4万回を観測しています。

私たちの地域では、首都圏直下型地震として30年以内に70%でマグニチュードは7.3、震度5強から6弱を予測されています。さらには南海トラフ沖地震に関しては30年以内に80%と、まさに間近に迫る大規模地震を強く危惧するところでもあります。

コロナ禍での分散避難となり、在宅避難や親戚・友人宅の避難や車中泊避難をと提唱していますが、余震は常に起こり、在宅避難者でも家屋が頻回に揺すぶられる状況からは住み続けることが困難となりうると察します。近隣公園を使用してのテントやカマド、仮設トイレなど、簡易的なもので設置ができるように進めていただければと思います。

初期消火器材について

初期消火について、10型消火器を用いての訓練をしています。身近なところで手にすることは少ないのではないかと思います。

家庭用の消火器の点検についても進めていただき、地域使用できる10型消火器設置をと思います。

また、スタンドパイプ式（ホース及びスピンドルドライバー、筒先）を各自治会単位で設置が可能であれば初期消火対応ができるものと思います

住宅防災・減災について

自助努力については早急の課題であることから、防災・減災についての啓蒙活動が必要です。家具類の転倒防止や感震ブレーカーの設置を進めてまいります。

1、防災グッズ業者に展示を兼ねて店頭販売をしていただきます

自らは設置が困難であれば、自治会内で対応します

2、消火器の点検についての啓蒙

住宅耐震化について

耐震化無料講習の受講